



● 城東地区 ●
 1872 世帯
 男 1783 人
 女 1889 人
 合計 3672 人
 H 29.9.1 現在

「地域包括ケアシステム」講演会を聴講して

8月3日、城東公民館において、信州大学教授・井上信宏氏の地域包括ケアシステムについての講演があり、北上横田町会からは、町会長・民生児童委員・公民館長の三名が聴講しました。

地域包括ケアシステムとは「誰でも地域で安心して暮らし続けることができる仕組みを構築することである」との説明がありました。



講演会の模様

そのことによって私達の多くが望んでいる「普通の幸せ」を手に入れることができるということです。



講演を聴講する参加者

しかし、少子高齢化・人口減少社会が進行し、それに伴って家族の様態も変化し地域もまた変化してきており「普通の幸せ」を手にするのが難しい時代になっていて、今までの方法では、変化に対応できなくなっている。

この問題を解決するため重要になってくるのは
 ①自分の健康を維持し続けること。健康であるためには人との繋がりと笑顔が大切である。
 ②自分一人ではできないことを手助けしてもらええるシステム

ムを作ること。地域包括ケアシステムのゴールは、つながりと笑顔を育てる地域づくりであるという結論でした。

講演を通して、我が北上横田町の現状をみると、町会加入世帯数は62世帯でその内一人暮らし高齢者世帯は16世帯となっています。

先日、一人暮らしの高齢者の方が自宅で脳梗塞のため動けなくなる事がありました。幸い発見が早く事無きを得ましたが、孤独死が身近な問題となったことを実感させられました。

町会に住む人々が住み慣れた家で、地域で安心して暮らし続けるまことにするために、
 ①笑顔で住民同士の挨拶を心掛ける。
 ②自らの住む地域に関心を持ち、町会の役員や、町会の行事に積極的に参加して、地域の問題を自らの問題として捉えるようにする。

③近所に一人暮らしの高齢者の方がおられたら何気ない心使いで見守ってやり、何か事あれば町会役員・あるいは民生児童委員に連絡して事に対処する。
 など、住民一人一人が意識して行動するようになれば町民

同士のつながりが深まり今よりも住みやすい、人に優しい地域社会が出来てくるのではと考えます。
 (清澤)

女鳥羽町会 七夕人形とサークル活動

松本地方では、8月7日を七夕として、家々で紙でできた七夕人形を軒先に吊るしますが、そもそもは厄払いした着物を子どもに着せるもので、次第に人形に着物を着せて軒先に飾るものに変化していった様です。

これは全国的にも珍しく、この日は野菜や果物をお供えますが、「七夕様は甘いものや粉ものが好き」という事で、お焼きやほうとう(戦国時代この地域を統治した武田信玄の影響が見られる)、まんじゅう等もお供えし、お盆と七夕がミックスされたようなものです。

女鳥羽町会では公民館の年間行事として、ボランティアの皆さんのお陰で会費も安く中身のある「お茶会」「居酒屋」等のサークル活動を実施し親睦や絆を深めています。今年「お茶会」では大人達に交じって、同じ町内でありながら普段は交流の無い通学区域が異なる小・中学生も加わ

り、初めての七夕人形作りでは、子供達は覚えが早く大人が教えて貰う和気あいあいの三世交代交流や、参加人数も増えて活気が見られました。
 是非来年も七夕人形作りの「お茶会」を行い、来たい時のみ参加するという気軽なサークルだけに多様な企画が必要に思えました。(矢島)



七夕人形作り

「城東地区市政懇談会」開催のお知らせ

城東地区市政懇談会が以下の日程で開催予定です。
 松本市長が、地域の皆さまへ市政方針の説明を行います。また、地区住民との対話をとおして意見や提言を聞き、市政へと反映していきます。

是非ご近所お誘い合わせで、ご参加ください。

日時 11月27日(月)
 午後7時

場所 城東公民館大会議室

岡山城



今年、中国地方に旅する機会に恵まれ、岡山駅から久し振りに路面電車と徒歩で、別名烏城うじょうあるいは金鳥城きんじょうと呼ばれる岡山城を見学した。

現在の天守は空襲で焼失して、昭和39年から41年にかけて鉄筋コンクリート造りで再建。築城年代は、松本城より遅く豊臣5大老の宇喜多秀家が8年もの歳月を要して一五九七年。

縄張りには梯郭式で「岡山」という小高い山を利用しての平山城。川幅の広い旭川の流路を利用し、城の手前で大きく東方へ曲げて城の北東面に沿わせ、さらに南流するように変えた天然の外堀として構え、西から城を囲む様に鍵型に内堀を造り、曲輪の本丸には、全国的に珍しい不等辺五角形の天守台に野面積の高石垣を備え、豊臣系城廓に見られる金箔瓦を使用した三層六階(松本城も築城時に金箔が軒丸瓦に施された五層六階)の望楼型天守と、塩櫓と呼ばれる櫓を付属させて(松本城の辰巳附櫓と同様)複合式天守を築城。

江戸時代に、徳川家康の外孫、譜代大名池田忠雄により城門や隅櫓を増設して34基の櫓があったようですが、現在では戦火を免れた2基の櫓のみ残り、1基は、本丸内に在る月見櫓(多門櫓で不明門に通じている)で、外からは二層の楼望型に見えるが城内からは三層の層塔型様式となる隅櫓で廻縁の内側に引戸、外側に雨戸がある。(写真参考)



岡山城の月見櫓

城郭防衛と月見も兼ねており、松本城は月見の為に作られた連結複合式で、月見櫓は此の二城だけが現存している。戦火を逃れたもう1基は、西の丸にある「西手櫓」でも何れも重要文化財に指定されている。修復した城壁を囲む土壁の鉄砲狭間(写真参考)が反対方向に広がり、犬走りが無く再建されていた。



同城 鉄砲狭間

天守内部に入ると、地下一階が切符売り場(現存の時は地下無し)となり、各階に展示物、売店や食事処があり、案内は画像データを利用しており博物館に思えた。

外部に關しても同様に木材は使用されず、烏城と呼ばれる黒漆下見板や塩櫓の白漆喰が見られず、歴史的価値が無い為か、外観を真似ただけで済ませており、松本城が姫路城の白鷺城に対し、宣伝的に岡山城に代わって「烏城」と呼ぶのも理解できた。

石垣に關しては築城時の野面積み・江戸時代初期の打込みハギ・其の後の切込みハギと各時代による石積が観察できて、高石垣を含めて此の時代の遺構と思えた。旭川の月見橋を渡ると岡山後楽園があり、入場口近くの茶屋から観



岡山城

る岡山城は雄大で歴史を忍ばせてくれている。(写真参考)

雑感

後楽園は当初の出城の役割から、城主の憩の建造物と趣を楽しむ庭として東京ドーム3倍の広大な敷地に回遊式庭園が造られた。岡山城同様に空襲で焼かれ文化財保護法により国の特別名勝に指定されて、昭和42年に庭園内全ての建物が復元、個人的感想では日本三名園で最も整備され、小雨の中、後楽園の背景に映る岡山城が幻想的だった。(矢島)

2年程前の夏に大学時代の友人から、「閑保八十三景」なる立派な書籍が突然送られてきた。彼がくれる年賀状の文章には以前から興味があつて、な

かなか才能があるなあととは思つていて、返事の年賀状に「随筆を書いてみたらどうか」とお世辞半分で書いたことを思い出した。

彼とは大学3年の春休みに二人で沖繩旅行し、本土に帰つてきて鹿児島から彼の京都府丹後の実家まで、ヒッチハイクで六日掛かりでたどり着いた思い出がある。

50年以上前の当時の沖繩はパスポートが必要だった。嘉手納基地の滑走路脇に張り巡らされた鉄条網の直ぐ脇で、一人農夫が黙々と鍬で畑の土を掘り返していた。農夫の後ろに着陸態勢になった米軍のジェット戦闘機の機影があつたが、今思い出すと、どうしてもそれがオスプレイの機影になつてしまふ。

当時の沖繩の人達は、学生であろうと誰であろうと本土から来た人間には優しく親切だった。リュックを背負つて歩いてみると、車の運転席から、何処まで行きたいか、乗せてあげると必ず声をかけてくれた。

あの頃のあの時の恩返しは何も出来ていないことをただ恥じるばかりの自分がある。

(征矢野)